

2026年1月幹事会 企画幹事資料

1. 若手特別会員 特別講演講師について

2026年1月14日（木）のメールにてお知らせがあった通り、本年より若手特別会員の先生方には、特別講演講師やその他薬物動態談話会へのご協力を積極的にお願いする予定となっております。候補案としては、例会における特別講演者、または夏セミナーにおける講師としてご協力いただくことが挙げられております。

◇ 審議内容： 常任幹事および主幹事と協議のうえ、方針を確定したく存じます。

2. 2026年4月例会の準備状況

開催日：2026年4月17日（金）13:30～16:30

場所：千里ライフサイエンスセンター（大阪）現地開催

一般講演：株式会社ジェノメンブレンより4月例会での発表は9月例会に延期したいと連絡いただいた。繰り上げで次順の塩野義製薬株式会社に講演依頼し、了承が得られた。株式会社ジェノメンブレンには本年9月例会での発表を了承いただいている。

特別講演：「若手特別会員 特別講演講師について」を参照ください。

講演	演題・所属・氏名	備考
一般公演	1) 13:30～14:15 「三和化学研究所の創薬研究紹介 新規V2受容体作動薬の代 謝評価」(仮) 株式会社三和化学研究所 井土 徹 先生	済 演題 済 演者 未 ご略歴 不要 依頼書
	2) 14:15～15:00 「核酸アナログのトリリン酸体に着目した動態評価とヒトPK予測」 (仮) 塩野義製薬株式会社 河合 夏苗 先生	済 演題 済 演者 未 ご略歴 要 依頼書
特別講演	15:15～16:15 「」(仮) 若手特別会員 又は 候補①：佐能正剛先生(和歌山県立医科大学) 候補②：植山（鳥羽）由希子先生（大阪大学） 候補③：白坂善之先生(昭和薬科大学)	未 演題 未 演者 未 ご略歴 未 依頼書
司会	サターラ合同会社	

3. 2026年9月例会の準備状況

開催日：2025年9月18日（金）

場所：日本薬学長井記念ホール（東京）現地開催

一般講演：株式会社ジェノメンブレンと株式会社新日本化学にお願いをしています。2月13日までに演題を含めた内容を入手予定です。

特別講演：一般講演の内容と関連した先生又は若手特別会員の先生を選定予定。

講演	演題・所属・氏名	備考
一般公演	1) 13:30～14:15 「未定」(仮)	未 演題
		未 演者
	株式会社ジェノメンブレン	未 ご略歴
		未 依頼書
2) 14:15～15:00 「未定」(仮)	株式会社新日本科学	未 演題
		未 演者
	株式会社新日本科学	未 ご略歴
		未 依頼書
特別講演	3) 15:15～16:15 「未定」(仮)	未 演題
		未 演者
	サターラ合同会社	未 ご略歴
		未 依頼書
司会	サターラ合同会社	

4. 2025年度 第48回年会報告（反省点）

準備段階：

- 結果として、特に規定から外れる案件はなかったが、飛行機や電車を利用する場合の交通費精算に関する事前の連絡ができていなかった。
- 講演依頼書に飛行機や電車利用時の注意点を盛り込んだテンプレートとする（11月幹事会で承認済み）。
- 会計内規で年会の謝礼金に関し、会長講演（3万円）と会長スピーチ（2万円）の両方が行われた場合に、合算の5万円が謝礼金になるのか、より高い謝礼金のみ（3万円）とするか明確に記載されていないので、判断に迷った。昨年の資料を見返し、後者であることを確認したが、今後も同様に確認が必要になる可能性があるため、内規を改訂しておいた方が良いと思う。
- 演者・座長にプログラムや要旨集を事前にメール送信必要か確認漏れていた（毎年送信しているか不明）、その為要旨集持っていない方も居た？
- 来年は、2日目朝食を取りながらの幹事会が不可。そのため、1日目の準備開始前に幹事会を実施 or 2日目朝食は各自済ませた後に幹事会を実施 のいずれかで検討すること（幹事会中のコーヒースービスも無理）。

会場準備：

- 入り口に水を置いておき、各自持って行くスタイルが良かった印象。
- お水を入り口で各自取っていくスタイルにしたことで、残余分が明確になり残余分の費用計上しないでいただけることになった。
- 休憩時のお茶菓子場所をクローク側にも設置してもらうことで、ブース全体がにぎわったと思う
- マイクは角度により聞こえにくくなるので、事前に講演者の先生に伝えておいたので、非常に聞こえにくい状況は避けられた印象。
- 今回全体写真を撮る時間が設けられなかったが、これは意見交換会で実施した方が良いと思う。
- 集合写真は、撮る場合は意見交換会にて撮影をデフォとするので良いかと思う。
- プロジェクター等の機器の動作確認を徹底する（されていたらすみません）
- マイクのスイッチが入っているかの確認
- 要旨・プログラムを紙で見たい人（事前アナウンスはしているが忘れてくる人）いるので、一定数用意しておいても良いかと。本年度は要旨25部くらいで完売した。
- 会場両側の荷物置き場は今後は不要かも。ただし、充電スポット設置は継続で良い。アナウンス後は使用している方もいた。
- 名札へ領収書を入れる作業について、流れを整理しておいたほうが良い。談話会控えと参加者控えの違いが分からず、初めは折りたたんで入れてしまっていた。2度手間にならないように次年度に伝達。

スライド投影：

- 照明は質疑応答中は全灯とした。若干、スライドは見にくくなるものの、特段の支障はなかったという印象。演題数、講演時間、休憩時間などはちょうど良い印象。ほぼ、予定通りに進めることができた。
- スライド映写が2チャンネルあるとトラブル時に対応が可能となり、良いと思いました。
- スライドチェック時はうまく映写できたが、本番でスライドが映写できないことがあった。原因はアダプターのタイプだったので、ホテル側に早めに対応してもらえるようにしておく良かった。
- 両日、最初のスライド投影に不具合があった。
- 開会前の講演者及び座長の先生への挨拶とスライドチェックのため、開会前のスライド映写を行うことが出来なかった。
- 1日目開始前に演者スライドチェックが重なり渋滞していた。2日目演者は2日目開始前にチェックするのでも良いかもしれない。

企業展示：

- Showcaseを意見交換会ではなく年会のスケジュールに組み込んだおかげで、参加者が展示ブースの方々のアピールタイムに集中できていた点
- 企業展示のshowcaseを設けた点。昨年よりも盛り上がりがあったと思います。
- ブース紹介の時間を大会開始時に設けてくださったことで、参加者全員に紹介することができた。
- 看板、椅子、展示品に掛ける布が用意されており、出展者に優しいこと。
- ブースがコーヒー・コーナーの周りやトイレに行く途中など目に留まりやすいところに配置されていたため、

参加者に声を掛けやすい。

- 全体を通してとても満足
- 展示ブースの配置について：弊社以外の2社（フェニックスバイオ様、ライカ様）のブース場所は、人の通りが少ないように感じました。動線や配置について、もう少し工夫の余地があるかもしれません。
- 企業紹介のタイミング：**企業紹介は、コーヒープレイクの直前に行う**ことで、より効果的になると感じました。
- 休憩時間について：もう少し長めに設定して頂けると、参加者が展示ブースに立ち寄る時間も長く確保できるかと思います。
- 展示ブースに足を運んで下さる方々もいれば、時間的に余裕がなく展示ブースにまでお越し頂けない方々もいると思うので、**企業紹介に絡めて予め資料の配布**ができると大変有難いと思いました。
- 一方で、展示企業のアンケートでは、人が集まる仕掛けを盛り込んでいただけると嬉しいというご意見あり。
- 来年会場が異なる為、企業展示パネルがどのようなものになるかは事前に要確認。外注も可能とのことである。内規の費用はオークラを前提とした記載である為、**来年早々にも常任幹事含め検討開始**した方が良い。
- 企業展示の懇親会の参加費を事前に決めておく

参加申し込み：

- 参加登録のフォーマットは今後見直した方が良い（庶務）。最寄り駅記載箇所あるが、結局後日ルート確認する作業が発生する為二度手間。宿泊無しで両日参加、1日目のみ参加、2日目のみ参加の選択肢も追加する。お昼有無の記載も分かりにくい。
- 今後、常任幹事の宿泊部屋はシングルで良いかと思う。費用削減。

受付・昼食：

- ルームキーの受け渡し・返却について事前にスライドと会場アナウンスをしたため、昨年よりスムーズに受付対応できた。キー受け渡しは、今後も氏名の五十音順でよい。
- 演者、座長でお昼を申し込んでいないのに食べている方がいらっちゃった。ヒアリング時に分かりやすく伝えるべき（帰られた人がいて、奇跡的に数足りた…）。

進行：

- 展示ブース紹介を新たにプログラムに組み込んだが、ほぼ予定通りに進めることができ、演題数、講演時間、休憩時間などはちょうど良い印象。
- ベルの時間は0、10、15分前で良かった。
- 質疑応答の持ち時間を把握されていない演者の先生がいたので、事前に再度連絡するべきであった。
- 体調を崩され欠席となった座長の先生がおられたが、臨機応変に事前に対応できて、当日も問題なかった。
- マイクがオフのまま話をされていた講演者の先生がおられたが、幹事席からだとは分かりにくく、対応が遅れた。
- 特定の先生方による質問の偏り。途中、一般参加者からの質問を促すアナウンスがあったのは良かったと思います。
- **一般参加者が質問しやすい雰囲気づくり・アナウンス。**

意見交換会：

- 意見交換会の食事量は昨年同様人数の8割とした。ちょうどよかったと思う。
- 意見交換会のスピーチを前後半で分けたことで、参加者が散漫にならずに注目していただけた印象。
- 意見交換会のスピーチを今回10名にお願いしたが、**やや忙しい印象**のため、若干減らしても良いかもしれません。
- 意見交換会でご挨拶される先生の人数・タイムスケジュール調整。参加者同士で交流できる時間が少ない、食事を取りに行くタイミングが無いと感じた時間帯がありました。
- 意見交換会は他企業とコミュニケーションが取れるとても良い時間ですが、初見でコミュニケーションを取ることの難しさも感じております。ぜひ他企業とのコミュニケーションを積極的に取りたいため、自由時間とは別にテーブル内での意見を交換する時間を設けるのはいかがでしょうか。

5. 2026年度第49回年会の準備状況

開催日：2026年10月29日（木）～30日（金）

場所：クラウンパレス浜松

事務局・担当幹事：千村・藤田（サターラ）、小森・永易常任幹事

* 本年の年会は、オークラアクティビティホテル浜松からクラウンパレス浜松に会場を変更して開催いたします。

年会構成案：

1日目	
開会挨拶	14:00～14:05
会長挨拶	14:05～14:15
Showcase（シンポジウム1）	14:15～14:35（4 min×5）
企業展示紹介	14:35～14:50
休憩（ブース巡り）	14:50～15:05
シンポジウム1	15:05～18:30
基調講演	15:05～15:55
一般講演×2	15:55～17:05
休憩	17:05～17:20
一般講演×2	17:20～18:30
意見交換会	19:00～21:00
時間が許せば全体写真	

2日目	
会長講演	9:20～10:00
特別講演	10:00～11:00
休憩	11:00～11:20
Showcase（シンポジウム2）	11:20～11:45（5 min×5）
シンポジウム2	11:45～16:20
基調講演	11:45～12:35
昼食	12:35～13:35
一般講演×2	13:35～14:45
休憩	14:45～15:10
一般講演×2	15:10～16:20
事務連絡	16:20～16:30

<シンポジウム（案）選定の経緯>

別紙1にあります通り、過去の演題を考慮したうえでシンポジウムテーマ案を選定いたしました。

前提として、一つは幅広く最新の情報を収集できるテーマ、もう一つは特化型のトピックを設定する方針としております。現状の案はいずれも幅広いテーマとなっておりますが、今後の議論によりテーマを絞り込む予定です。

また、海外の先生方をどのように候補として考慮するかについても検討が必要です。

2025年度（第48回年会）のコンセプト（メインテーマ）、シンポジウムテーマ、組織委員会メンバー案を検討するため、企画担当常任幹事および企画幹事による打合せをウェブにて開催いたしました。

<シンポジウム（案）>

<シンポジウム1日目>

多様なモダリティにおける毒性代謝研究の進化

趣旨：近年、創薬の対象は低分子化合物から抗体薬物複合体（ADC）、細胞治療などの高分子モダリティへと急速に拡大しています。これに伴い、毒性代謝（Toxicokinetics & Metabolism）に関する評価手法や科学的知見も大きな変革期を迎えています。本セッションでは、幅広いモダリティにおける最新の毒性代謝研究動向を取り上げ、AIやQSP（Quantitative Systems Pharmacology）などの先端技術の応用、ならびに規制科学の観点からの課題と展望を議論します。

本シンポジウムの目的は、従来の低分子薬に加え、高分子や複雑な治療モダリティにおける毒性代謝の理解を深め、予測精度の向上や安全性評価の革新に資する知見を共有することです。創薬研究者、規制当局、データサイエンス専門家が一堂に会し、学際的な視点から今後の方向性を探ります。

組織委員（候補）

- ◇ 中島美紀 先生、金沢大学
- ◇ 伊藤晃成 先生、千葉大学
- ◇ 植沢芳広 先生、明治薬科大学
- ◇ 渡邊伸明 先生、第一三共

演者（候補）

<基調講演>

- Dr. Aleksandra Galetin, University of Manchester, UK

<一般講演>

-

<シンポジウム2日目>

案1：新規評価計の進化

趣旨：医薬品開発における薬物動態（PK）および薬力学（PD）解析は、従来の血中濃度測定や静的モデルから、より精緻で生理的関連性の高い評価系へと進化しています。ATP ライブイメージングによる細胞代謝動態の可視化、PET/SPECT を用いた非侵襲的 in vivo 分布解析、マイクロ流体プラットフォームによる動的濃度プロファイル再現、さらには AI による in silico ADMET 予測など、革新的な技術が次々と登場しています。これらの新規評価計は、薬物の作用機序解明、トランスレーショナル研究の加速、個別化医療の実現に向けて重要な役割を果たします。

本シンポジウムでは、これらの評価系の最新動向と応用事例を概観し、従来法との比較を通じて、開発プロセスにおける新たな可能性を議論します

組織委員（候補）

- ◇ 前田和哉 先生、北里大学
- ◇ 楠原洋之 先生、東京大学
- ◇ 長坂泰久 先生、Astella
- ◇ その他候補

演者（候補）

- <特別講演>
- <基調講演>
- <一般講演>

イメージング：PET/SPECTによる in vivo PK/PD分析。

- 前田和哉 先生（北里大学）

AI／深層学習：Deep-PKなどによる in silico ADMET予測

Microperfusion System（MPS）

ATPライブイメージング：細胞代謝動態の定量評価。

- ATPライブイメージングからせまる腎疾患病態の解明(山本 伸也 先生、京都大学)

“Leveraging Biobanks, Omics, and Modeling to Deconvolute Variability in Drug Metabolism and Disposition” (Dr. Bhagwat Prasad, Cincinnati Children’s Hospital Medical Center)

◇ 審議内容:

- シンポジウム案の審議と絞り込み
- 組織委員候補者の推薦、選定
- 海外演者について

以上

	夏セミナー			年会	
	セッション1	セッション2	セッション3	シンポジウム1	シンポジウム2
2019年	薬物間相互作用評価における内因性バイオマーカー研究の最前線	実践に役立つヒト薬物動態予測法の基礎と最前線	創薬における費と代謝物の評価：現状と課題	低分子創薬の可能性を拓く新規創薬ターゲット 加藤将夫先生（金沢大）、中島美紀先生（金沢大）、中川徹也先生（大日本住友）、金井好克先生（大阪大） 影近弘之先生（東京医科大学）	低分子創薬の動態最適化及びDDS戦略 新聞秀一先生（大阪大）、平林英樹先生（武田薬品）、渡邊伸明先生（第一三共）、松本邦夫先生（金沢大） 新聞秀一先生（大阪大）
講演	大隈典子先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）、山添康先生（東北大）				
2020年	中止			深化する薬物動態制御技術 大槻純男先生（熊本大）、楠原洋之先生（東京大）、平林英樹先生（武田薬品）、村松慎一先生（自治医大） 伊藤慎吾先生（熊本大）	新技術で切り開く創薬研究の近未来 水口裕之先生（大阪大）、小森高文先生（エーザイ）、長坂泰久先生（アステラス） 水口裕之先生（大阪大）
講演					
2021年	トランスポーター機能のフェンタイピングのための新規ツールの利活用	まずこれだけ！細胞治療の基礎と最前線	企業研究者が対応すべきバイオアナリシスの規制と多様性	難溶性・難吸収性薬物の吸収予測に関する最新の知見 井上勝央先生（東薬大）、菅野清彦先生（立命館）、上林敦先生（アステラス）、山田芳裕先生（九工大） 榎坂章博先生（千葉大）	薬剤誘導性肝障害（DILI）低減に向けた薬物動態の貢献 伊藤見成先生（千葉大）、中川徹也先生（大日本住友製薬） 水口賢司先生（大阪大） 伊藤見成先生（千葉大）
講演	宍合孝広先生（東京医大）、出澤真理先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）				
2022年	AMEDが進める創薬基盤推進研究事業と製薬動態研究ニーズ	医薬品開発における2030年の薬物動態の姿	アンメットメディカルニーズに応える薬物動態研究の動向 一新医療モダリティ時代に対峙するための温故知新的アプローチ	Non-CYP代謝研究の新知見と創薬での活用 中島美紀先生（東薬大）、佐能正剛先生（和歌山医科大）、大西秀一先生（塩野義）、神山信雄先生（アステラス）	バイオマーカー研究の最前線：探索から活用まで 楠原洋之先生（東京大）、斎藤嘉朗先生（国立衛研）、大石昌代先生（アステラス）、三日月剛先生（第一三共） 楠原洋之先生（東京大） 斎藤嘉朗先生（国立衛研） David Rodrigues（ファイザー）
講演	藤本利夫先生（湘南ヘルスイノベーションパーク）、浦野泰照先生（東大）、杉山雄一先生（城西国際大学）				
2023年	ニューモダリティの組織移行性への壁	トランスレーショナル研究への壁	進化するバイオアナリシスと薬物動態研究への壁	New modalityの薬物動態評価～組織移行性・細胞内分布～ 西川元也先生（東京理科大）、大槻純男先生（熊本大）、平林英樹先生（武田薬品）、岩崎紀彦先生（田辺三菱）	PBPKモデルの利活用の最新の動向 大谷 薫一先生（慶応大学）、前田和哉先生（北里大学）、渡邊伸明先生（第一三共）、渡邊貴夫先生（住友ファーマ） 菅野清彦先生（立命館大） 青木 康壽（城西国際大学）
講演	宮田完二郎先生（東京大学）、轟木堅一郎先生（静岡県立大）、杉山雄一先生（城西国際大学）				
2024年	低分子薬剤による新たな標的制御のための薬物動態研究 ～低分子薬剤の基礎と可能性～	中枢に到達する薬剤を創出するための薬物動態研究 ～中枢移行性の基礎と可能性～	生体内現象を精度高く予測する薬物動態研究 ～M&Sの基礎と可能性～	サイトーシスと中高分子薬の膜輸送 直田みさき先生（PMDA）、苗田啓之先生（JCRファーマ）、渡邊郁剛先生（塩野義）、井上勝央先生（東京薬科大学）	Special populationでの動態予測 谷川原祐介先生（慶應義塾大学）、大野能之先生（東京大学）、浅野聡志先生（中外）、辻本景英先生（製薬協）、佐藤洋美先生（千葉大学）
講演	古寺哲幸先生（金沢大学）、瀧木理先生（東京大学）、玉井郁巳先生（金沢大学）			二木史郎先生（京都大学）	
2025年	低分子医薬品の薬物動態研究～研究者が押さえておきたい定点と動点～	抗体医薬品の薬物動態研究～研究者が押さえておきたい定点と動点～	細胞/細胞外小胞を用いた治療の薬物動態・DDS研究～研究者が押さえておきたい定点と動点～	Physiologically Based Biopharmaceutics Modeling (PBBM) 前田和哉先生（北里）、宮松敬先生（中外）、T. Ycho (Merck)、京都野村史（PMDA）	TPD 森下先生（セルフイー）、井上先生（国立衛研）、大崎先生（アステラス）、今岡先生（第一三共）
講演	平林先生（名古屋市立）、佐藤先生（和歌山県立）、小林先生（協和ラボ）、刈部先生（第一三共）、中山先生（佐賀）、後藤先生（武田）、高橋先生（京都）			上林敦先生（東京理科） 江崎先生（愛媛）	
	DDI	開発・個別化医療	ツール・評価法	製剤	バイオマーカー
	ヒト予測・種差	モダリティ	DDS	M&S	安全性